

富山大学
教育研究実践総合センター紀要

教育実践研究

第17号

令和5年2月

目次

論文

中学校社会科歴史的分野における意思決定型授業の開発

—高山右近を「選択の基準」に中・近世移行期を捉える—

.....坂田 元丈 1

中学生における親しい他者に対する共感が行動決定に及ぼす影響

—共感は攻撃行動を促進するか—

.....山本万里衣・石津憲一郎 11

中学生の情動知覚とストレス反応、援助要請の捉え方の関連性

—援助要請の受け取り方に関する自由記述の視点から—

.....柄澤 真麻・石津憲一郎 21

プログラミング教育における課題の意義

—専門科目「情報集中演習」を例として—

.....上山 輝・山口 範和 35

中国の小学校における作文指導の実態調査

—日本での指導と比較して—

.....孫 家桐・宮城 信 43

報告

具体物を用いた筆算の意味理解を促す認知カウンセリング

—双方向のオンラインシステムを用いた学習支援—

.....小澤 郁美・岩本 匡矢 51

富山大学教育学部附属教育実践総合センター紀要投稿要項

令和4年4月1日制定

1 紀要編集

センター紀要編集委員会（「以下「委員会」という。）では、教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」という。）の紀要として、毎年度に1号の原稿を募集し、編集を行う。

2 著者の資格

- (1) 教育学部（以下「学部」という。）に専任配置される教員
- (2) 大学院教職実践開発研究科（以下「研究科」という。）に専任配置される教員
- (3) 学部附属学校園の専任教員
- (4) 委員会が認めた者、学部及び研究科に専任配置される教員との連名で投稿する者

3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は、未発表のものとする。
- (2) 教育実践にかかわる理論的実践的研究に関する論文、報告、資料、その他とする。
 - ①論文とは、新たな発見また見解を示した研究成果を論述したものをいう。
 - ②報告とは、授業実践報告などをいう。
 - ③資料とは、研究レビューや紹介、総説などをいう。
 - ④その他とは、上記①から③以外のものをいい、著者が投稿の際にその名称を申告する。
- (3) 著者は、原稿の種類（論文、報告、資料、その他）を申告する。
- (4) 著者は、原稿枚数が別に定める基準を超える場合には、原則として経費を負担するものとする。

4 投稿と受領

- (1) 原稿の締め切り日は、8月31日とする。但し、その日が土曜日の場合は、翌々日、日曜日の場合は、翌日とする。
- (2) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ、原稿2部と原稿を記録した電子メディアをセンター事務室に提出する。

上記の2の(3)による者は、その所属研究機関あるいは勤務先を記入する。

5 原稿の受付

- (1) 本委員会では、投稿された原稿について、本要項と執筆要項に照らしてその要件を満たしているならば、受け付ける。

6 修正と受理

- (1) 本委員会では、受け付けた原稿について査読する。
- (2) 前項の査読については、専門性等を考慮し、複数人で行うものとする。また、本委員会外にも意見を求めることができる。

- (3) 本委員会は、原稿の訂正を著者に求めることができる。
- (4) 原稿の採否は、本委員会が決定する。
- (5) 本委員会で採用を決定した年月日をもって、受理年月日とする。

7 校正

- (1) 校正は、著者の責任において所定の期間までに、初校及び再校を行なう。
- (2) 校正時における原稿の修正は認めない。
- (3) 三校以降は、委員会の責任で行なう。

8 二次利用

掲載された原稿の二次利用は、本委員会に委ねるものとする。

附 則

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

富山大学教育学部附属教育研究実践総合センター紀要執筆要項

令和4年4月1日制定

1 原稿の形式

- (1) 1篇として成立し、分割されていないものとする。
- (2) 言語は原則として日本語、英語とし、その他紀要編集委員会で認めるものとする。
- (3) 母国語以外を用いるときは、校閲を受けることが望ましく、著者より依頼する。
- (4) 現行の表記法を用いる。
- (5) 単位、及び単位記号は、原則としてM.K.S単位系を用いる。

2 原稿の書式と体裁

- (1) 1篇につき、図・表・写真等を含め、刷り上り14頁以内とする。やむを得ず制限を超える場合は著者の負担で掲載を認める。
- (2) 原稿の体裁は、書式見本（別紙）を基本とする。
- (3) 上記が困難な場合は、A4判用紙に32字×25行で印字する。図表がある場合は、そのまま印刷可能なものを添付すること。
- (4) 投稿論文数は、筆頭者1人につき、各号1篇とする。筆頭者による2篇以上の投稿については、編集委員会が審議して掲載の可否を決め、第2篇からは著者の負担で掲載を認める。

附 則

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

富山大学教育研究実践総合センター紀要
教育実践研究 編集委員会

委員長 上 山 輝

委 員 石 津 憲一郎

小 澤 郁 美

片 岡 弘

近 藤 龍 彰

笹 田 茂 樹

多 賀 秀 紀

高 橋 満 彦

野 田 秀 孝

長谷川 春 生

宮 一 志

安 本 史 恵

富山大学教育研究実践総合センター紀要
教育実践研究 第17号

令和5年2月8日 発行

編集兼 富山大学

発行者 教育研究実践総合センター

〒930-8555 富山市五福3 1 9 0

TEL (076) 445-6380

印刷所 株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名1554-23

TEL (076) 465-2341

“*KYOIKU JISSEN KENKYU*”

BULLETIN OF THE CENTER OF EDUCATIONAL RESEARCH AND PRACTICE UNIVERSITY OF TOYAMA

No. 17

February. 2023

CONTENTS

Original Article

- Development of Decision-Making Lesson in Junior High School Social Studies in Historical Field
— Capture the Transitional Period from the Medieval to the Early Modern by “Criteria for Selection”
from Takayama Ukon’s Way of Life —
..... Genjo SAKATA 1
- Effects of empathy for close others on behavioral decisions in junior high school students
— Does empathy promote aggressive behavior? —
..... Marie YAMAMOTO, Kenichiro ISHIZU 11
- Relationship between Emotional Awareness, Stress Response, and Perception of Help-Seeking Behavior
in Junior High School Students
— From free descriptive answer perspective on ways to interpret help-seeking —
..... Maasa KARASAWA, Kenichiro ISHIZU 21
- Role of Exercises in Programming Education
— A Case Study Based on a Specialized Course “ Intensive Training to Information Communication” —
..... Akira KAMIYAMA, Norikazu YAMAGUCHI 35
- A Survey on Writing Instruction in an Elementary School in China
— Comparative Study of China and Japan —
..... SUN Jiatong, MIYAGI Shin 43

Report

- Cognitive Counseling Using Concrete Objects to Understand the Meaning of Computational Procedures
— Learning Support Using the Interactive Online System —
..... Ikumi OZAWA, Masaya IWAMOTO 51